

# 12

## re-cords

展覧会「エキゾチックーひかりのまちー」  
における映像インスタレーション作品

### re-cords

Inter-media installation  
at an exhibition “exotic -wonderland-”

デザイン学科・助教

Department of Design・Assistant Professor

井垣 理史 Masashi IGAKI

映像メディア学科・助教

Department of Visual Media・Assistant Professor

伏木 啓 Kei FUSHIKI

会場：愛知児童総合センター

Venue : Aichi Children's Center

会期：2009年2月6日-15日

Date : 6th-15th, February, 2009

## 企画の背景

「re-cords」は、愛知県児童総合センター（長久手町・愛地球博公園内）主催の展覧会「エキゾチックーひかりのまちー」に出品した作品である。同センターは、子どもと大人を対象とした様々なプログラムを実施しており、センター顧問の田嶋茂展氏の言葉を借りると「子どもに媚びない大人にとっても刺激的な場所」となっている。今回の展覧会も、子どものみを対象としたものではなく子どもと大人の想像力を刺激することを目的とし、センターの建築空間全域を扱いメディア・アート作品を展示するという企画であった。

## 作品概要

制作者の井垣と伏木は、2003年より映像、インスタレーション、パフォーマンスを組み合わせた作品を協働で制作しており、一貫して「場所」の特性を利用した作品制作を試みている。本作品では、16枚の可動式ガラス製パーテーションによって建物内部と外部をつなぐ開口部として機能している場所を選択し、一枚のガラスをスクリーンに見立て、実在の風景とスクリーンに映し出された風景の両者の関係性によって成立させることを試みた。具体的には次の通りである。箱状のオブジェクト（2100×2100×6400mm）をガラス（建物の境界面）を貫通するように設置し、空間の外部と内部の連続性を印象づけるとともに、ビデオプロジェクションの為に遮光を可能とした。映像は、ガラス面を通して見える実在の風景の一部をリアルタイムで撮影したものであり、鑑賞者はガラスを通して見える風景のなかに、ビデオカメラによって切り取られた少し奇妙な風景（しかしそれは、実際に目にしている風景の断片）を見ることになる。さらに、オブジェクトの前にマイクロフォンを設置し、マイクロフォンに向かって声を発すると、その声を切っ掛けとしてリアルタイムの映像に過去の映像が重ねられ、同時に自身が発した声も3秒ほどの間隔で反復して聞こえるというインタラクションを組み込んだ。つまり鑑賞者は、自身の声の木霊とともに、過去の映像（例えば、母親と子どもが戯れている映像）と実在する風景を同時に知覚し、複数の時間の重なりを体験した。



写真1: 作品全景（屋外より）



写真2: 作品部分（子ども用椅子）





写真3: 作品部分



写真4: 作品全景(屋内より) / システム構成: ヴィデオプロジェクター, コンピュータ, ヴィデオカメラ, マイクロフォン, スピーカー



写真5: 作品部分(オブジェクト) / オブジェクト素材: プラダン, 鉄, 布(スクリーン), 椅子

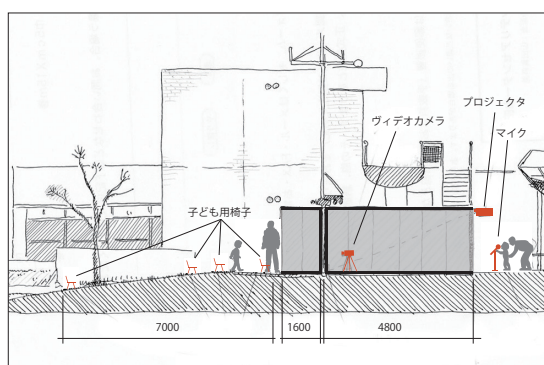


図1: 初期スケッチ(立面図)



写真6: 作品部分(内部)

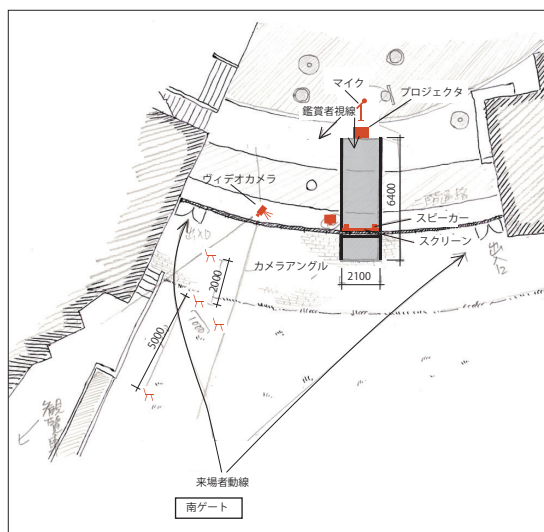


図2: 初期スケッチ(平面図)